輿車圖考

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

輿車圖考

東京圖書館
和書門
政書類
一〇函
五架
九八號
一二冊

は
12
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

東京圖書館藏書

雨眉車

雨眉ごい唐車のやうなるをいふなり

蛙抄云雨眉車或雨字作尼非也絰代庇車同物ニ
又言車圖之内ニ有雨眉絰代庇有眉擶柳庇所詮
通于両物之號歟可尋
爰さ毛あり該の車と雨眉絰代の庇を擶柳
なり雨眉擶柳庇ニて
大なかそろしにあり
毛もそく物よたゑのこと
同云太政大臣用之前官牲用之有職抄
云雨眉絰代庇車或記二勅

萬津曽能乃斯傳

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

ル他ノ大臣是ヲ用ヒストイヘリ其様屋形ノ上白キ
網代（同色ノ文有リ）廂ノ上同白キ網代（文ナシ四ノ角ニ打金物有）袖同白キ
網代（漆塗ヲ以テ文小菊ヲ大鞆ヲナリ）物見ノ下例ノ網代（文小鞆）袖ノ内立連子
有朱ノ縁アリ其下例ノ連子底ニ桐ノ葉ノ無木ヲ掛ル（瑞ニ黄ヲヌル）廂ト物見トノ間内外ニ横連子アリ朱ヌリ
物見ノ板（外ニ簾絲色内ニ遠山霞鶴ナトヲ画ノ）立板（小菱ノ綾ヲ張テ四季ノ画ヲカク左ノ前春同後秋右ノ前夏
同後冬唐綾上緒草崎ヲ入レス）下張（白色ノ紙簾ノ縁ハ青組ノ糸五緒一ツ文蓝草ノ鳳文小鞆裏ノ縁ハ青キ唐綾上
緒草崎ヲ入レス）

上張ニもちゐる礼の事うにたちいたる紀ついありそれ
より定りのもの也（まま）ますく紀るのうい乃宮にもち

かゝるものてもあるへき革緒ハ
ゝ重物の紀とゝも

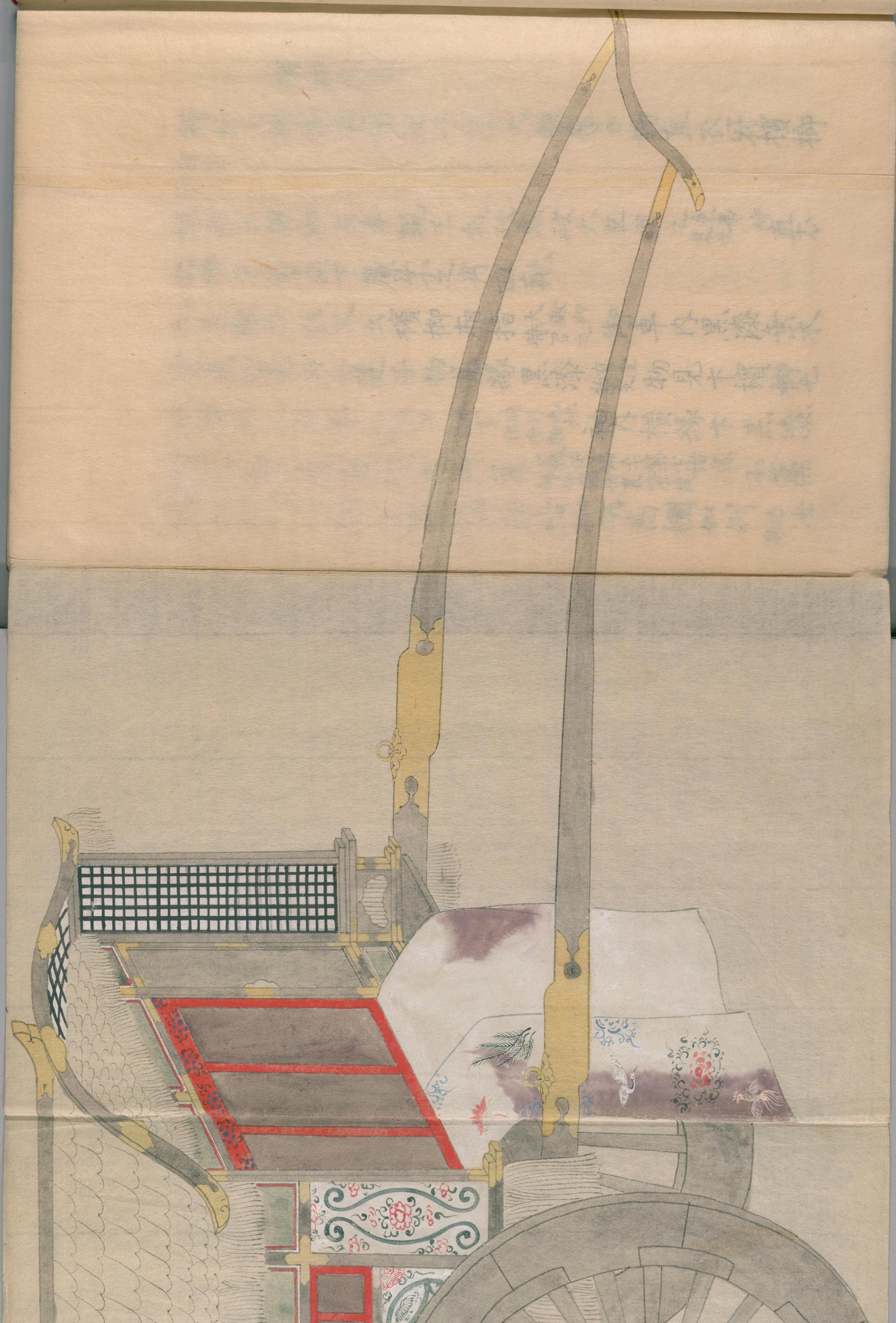
台記云保延二年十二月九日予乗長物見車（中畧）於二
条町程巻簾天上緒ひちうゐ緒よかめんとする程無
上誌云予乞下簡随身重文刀宛ヲサシアけ天ゐ
ちゐ緒よりくある乞ちう物見ゟ上乞ゟあり
乞ゟ如ゟ

物見ノ簾（編糸花ニ裏縁等前ノ如ト雖ニ青地錦ノ縁小文二枚別紙掛紋二品アリ）畳（大文ノ高麗縁重筵）
下簾（青未濃）敷（諸総畝）榻（黄金物）
九条殿車註文云雨眉網代底車（軾柄共ニ攻大臣乗之他大臣不用之）

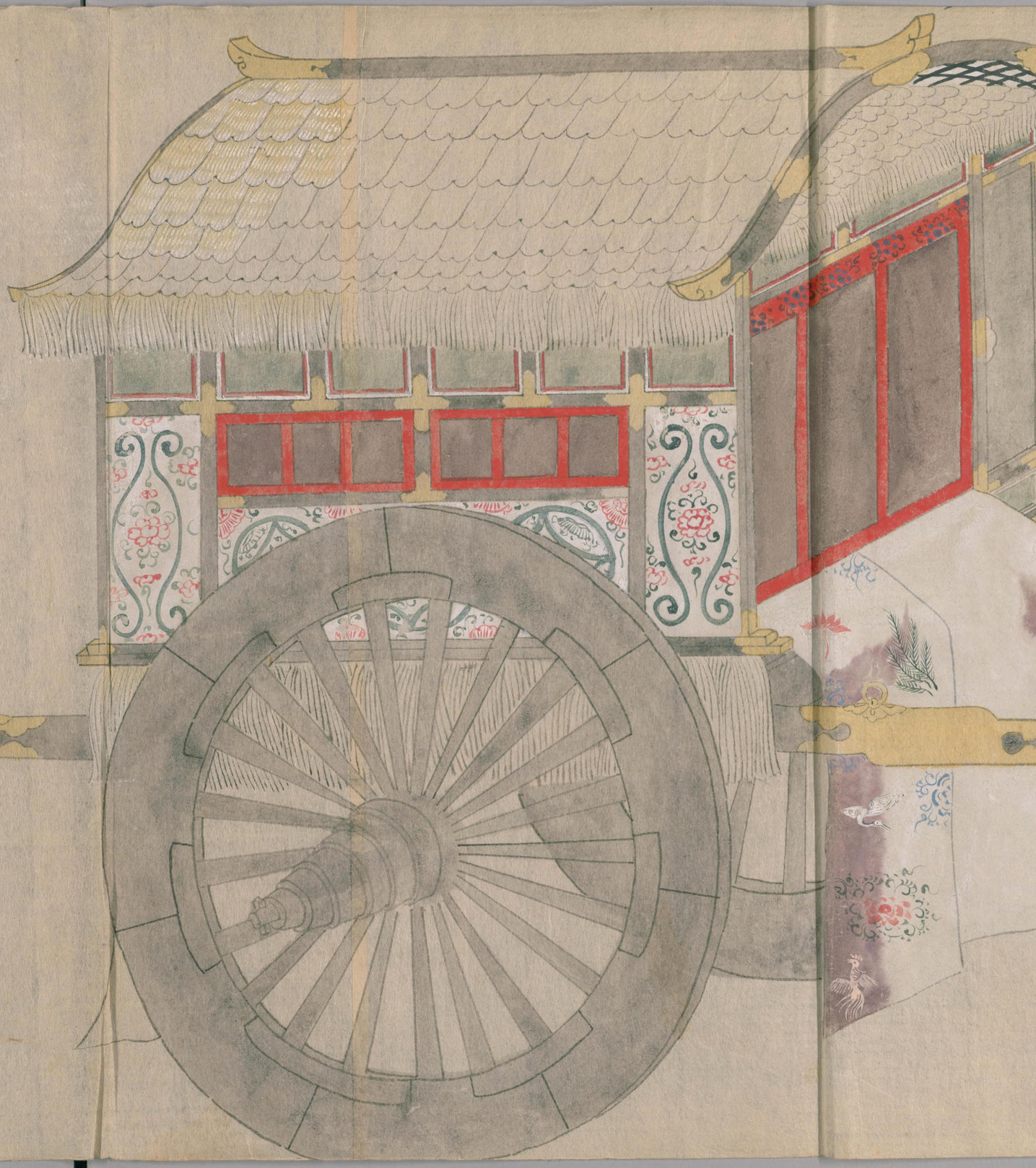
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

屋形上白綃代 有同色文小鞠繪 物見板并立板繪相見小簾等
一如半蔀車簾十簾如半蔀車
或八枚云〻有閑戸如半蔀車
桃花蘂葉云綃代底 眉如唐棟有底 号尼眉執政并大政大臣着
冠直衣之時用之小直衣ニテ参用之又有例
廂号尼眉御直衣之時召之壽永 綃代 上白 袖亀甲 立板小八葉 簾薄青
二宁治ノ道小直衣ノ乗廂車
糸蓝草五 小簾 画青地錦縁裏白綾 物見 外御簾形内繪落入 立板内 押絞繪如常 緣錦 金
緒裏白綾
物外金物但閑戸金物并 揚金物 散物 青末濃下簾 或有被畧之時依其所
両皮付鉄散物也
古乃宮ノ験記ニみえたる二条院皇の車なりそ
記ニさまざまに乗たまふ事ども有にや

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

檳榔庇車

餝抄云檳榔廂保延二三四大殿春日詣直衣冠檳榔
有牛
飾在
蛙抄云檳榔庇車親王執政太政大臣用之東帯時
始時青簾同下簾菓之内
九条殿車註文云檳榔廂指大厥御時召之御車内黒漆無末
塗朱物見外上連子物見縁黒漆有金物菱物見下檳榔庇
袖横縁上唐草彩色彫透之袖下同彩色地押金物袖内横縁下黒漆
在赤地押色巾袖内横縁菱打各四緒懸緒八筋各長二尺色櫨匂御簾蘇芳編糸紫七緒縁錦如檳榔裏紫綾小簾
如檳榔廂結紬美布高欄如例物在金

御榻如常在金物 御疊縁綾綱 京廷開戸 金物
桃花藥葉云檳榔扇指云〻 首書云保延八幡詣下簾苾蓼有繡物依一百晴歟尋常青未
濃無繡

扨その條註文九条殿乃ものへ
もそ〻〻ゆ

同云檳榔庇大閤之時集之此車知足院長兼比始而
廻意巧令造給眉ハ常眉ノ角ノ入タル也九家ハ太政
大臣之時或用之眉如唐棟故是ヲモ号尼眉云〻
いつ〻図をる処ハ眉の角のつまる所をもちて
有職抄云檳榔庇太上天皇摂政關白大臣親王等

是ヲ用ユ嘉禎三年三月廿六日近衛前關白兵仗
之拝賀ニ檳榔ノ庇車ニ乗其躰上檳榔庇同檳榔
総アリ袖ノ上ノ連子唐花ヲ畫ク物見ニ半蔀ア
リ蘇芳簾同下簾
将軍家 永享九年十月廿一日将軍家ニ行幸也
依テ普廣院将軍時ニ左大臣ニテ行幸以前先参内
之時檳榔毛ノ庇車ヲ用ヒラル
摂關 天養元年十一月廿九日知足院摂政兵杖ヲ賜フ
後初テ参内ニ檳榔ノ庇ヲ用ユ青キ簾同青キ下
簾ノヨシミヘタリ 治承四年二月十一日 故摂政之二郎

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

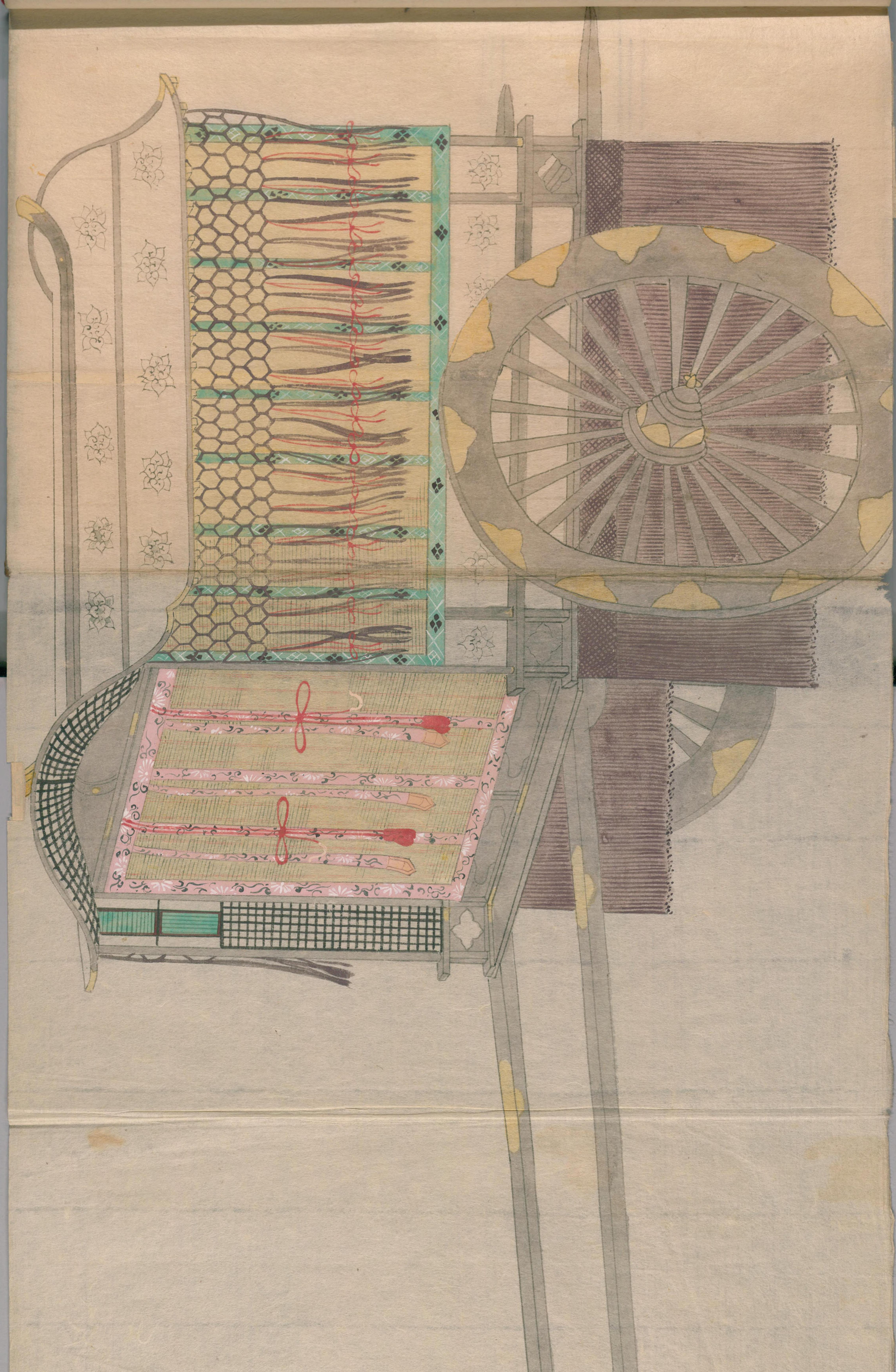
若宮元服二月輪右大臣ニテ櫃榔毛ノ庇車ニ乗テ彼
亭ニムカハル文治三年二月朔日月輪攝政内府ヲ相
伴テ院參攝政庇ノ車内府半蔀ノ車ニ乗ル
諸家　納言ノ大將關白ノ許ヲ受ラ庇ノ車ニ乗ルト
保延六年十二月九日久我右大臣大将ノ直衣始ニ法
性寺關白ノ許ニヨリテ始テ半蔀ノ車ニ乗ルヨシ
ミヘタリ貞和四年十一月十日中園相國ノ拜賀ニ
櫃榔毛ノ車ヲ用ル
三長記云建久九年四月廿一日今日仙院初御幸于
七条院中略次御車　庇菅首櫃榔毛殿下令調進給

玉蘂云嘉禎三年三月廿六日是日近衛前關白兵
仗幷賀也中略車　櫃榔庇車輿乗用繪様定也是天子例之歟其
青下簾如庇車懸畫軾　簾同下簾無繍物金簾如何
同云嘉禎三年三月廿八日小時前關白被參內兵仗
之後直衣始中略前駈六人衣冠殿上両三櫃榔庇車青簾
葉黄記云寛元五年四月三日今日為年始御行
始御幸兼明門院牛儀明日也而始駕御新造綱
代庇御車日次不宜云〻仍被縮之而元三中可被用
櫃榔庇之由有執申之人先例御不審之由令有
御尋前々元三中猶被用綱代庇之条勿論也

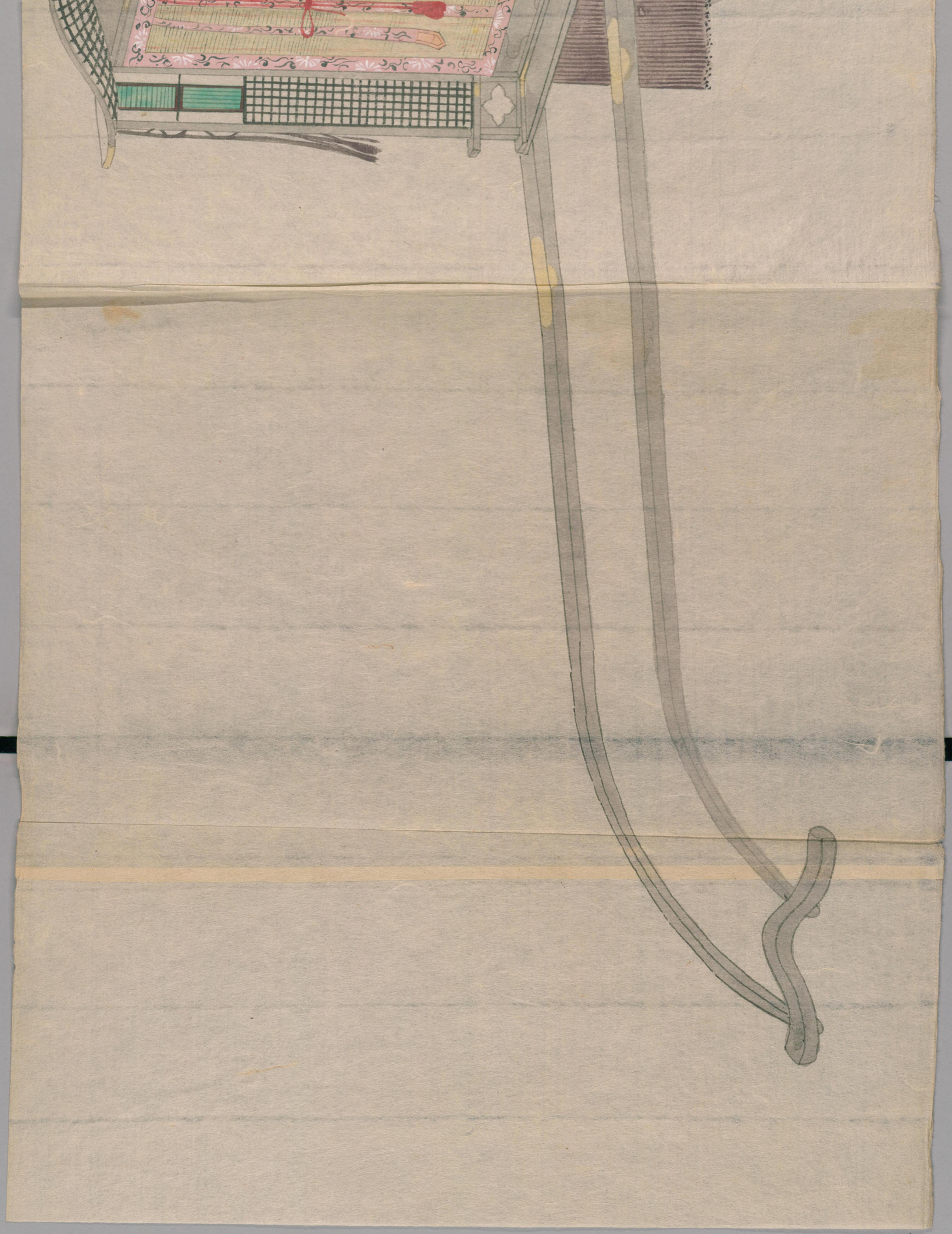
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

後深心院關白記云應安四年閏三月廿一日今日新
院御幸始也中略今日御車榻椙庇先例如此御下簾有儀
いつゝ九条家の車にくらくもとむ

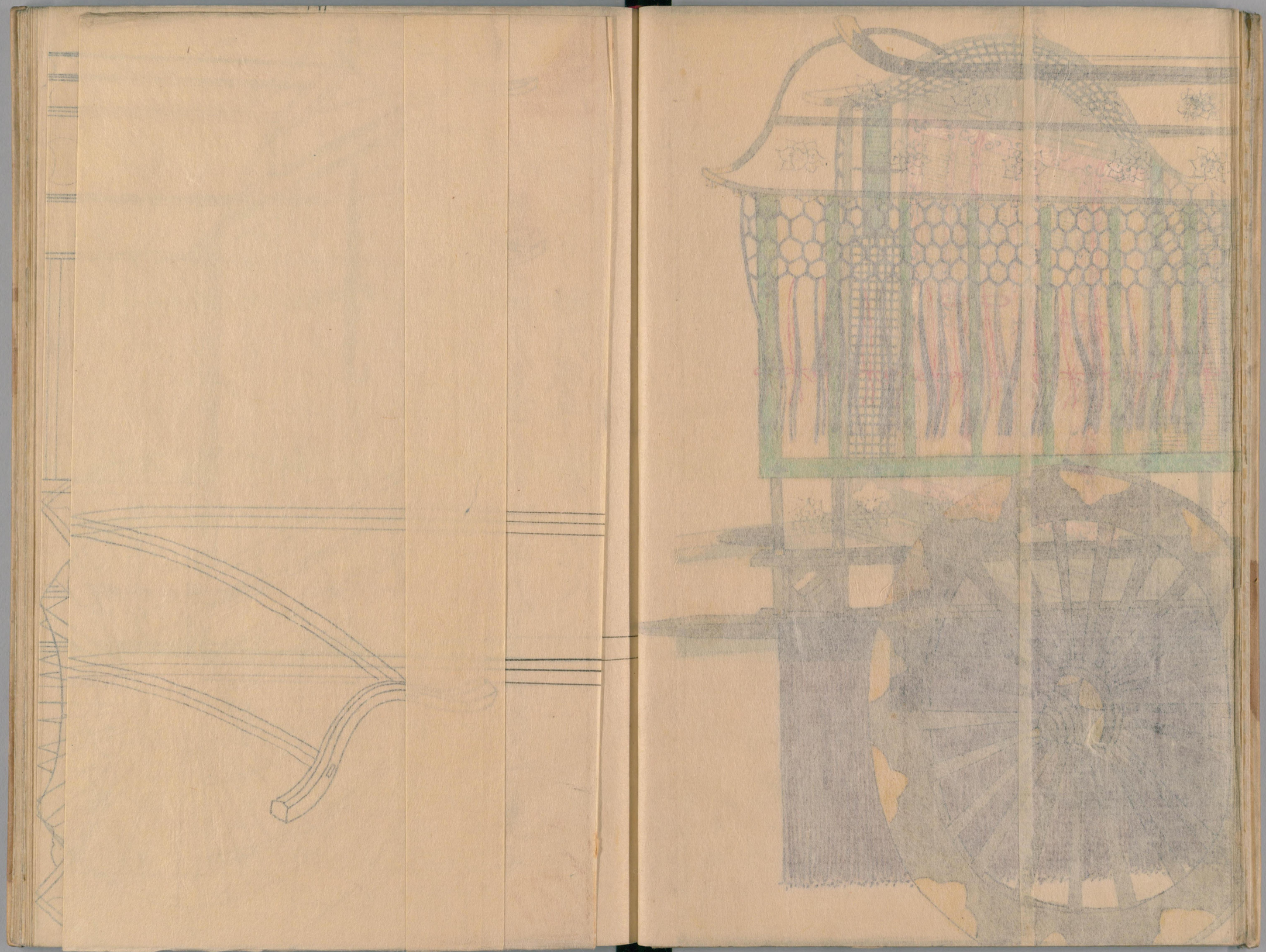
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

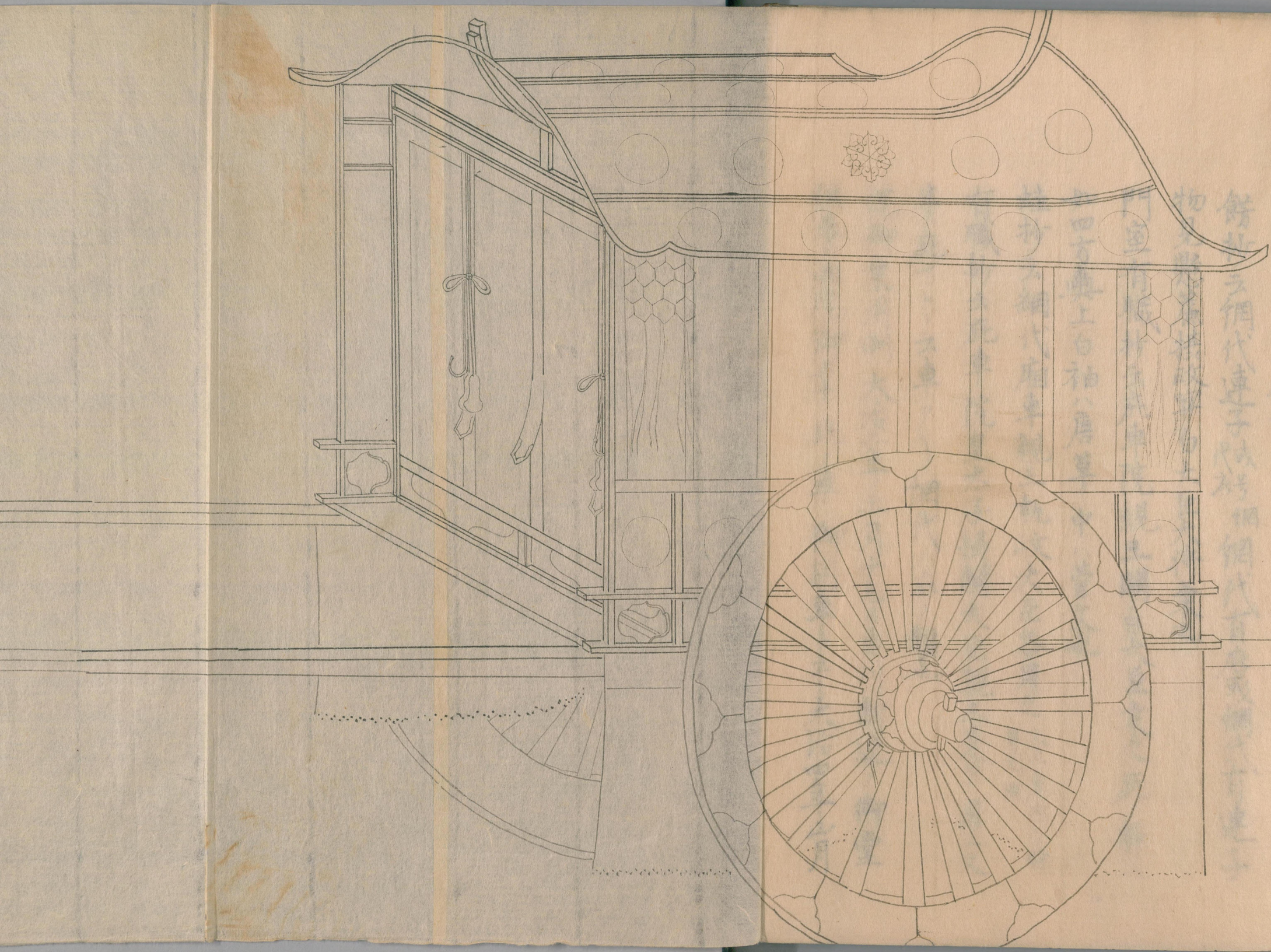


ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22



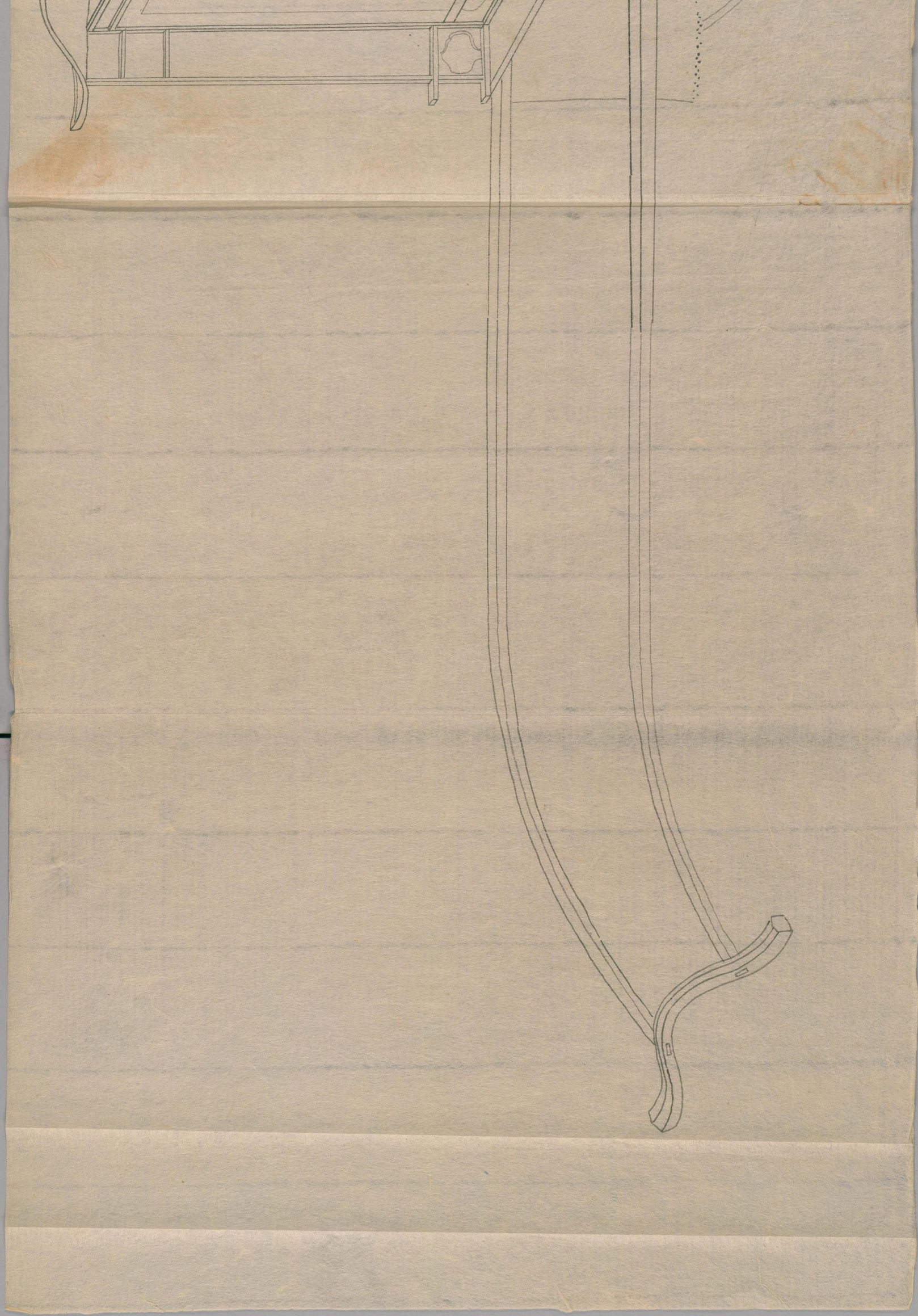
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

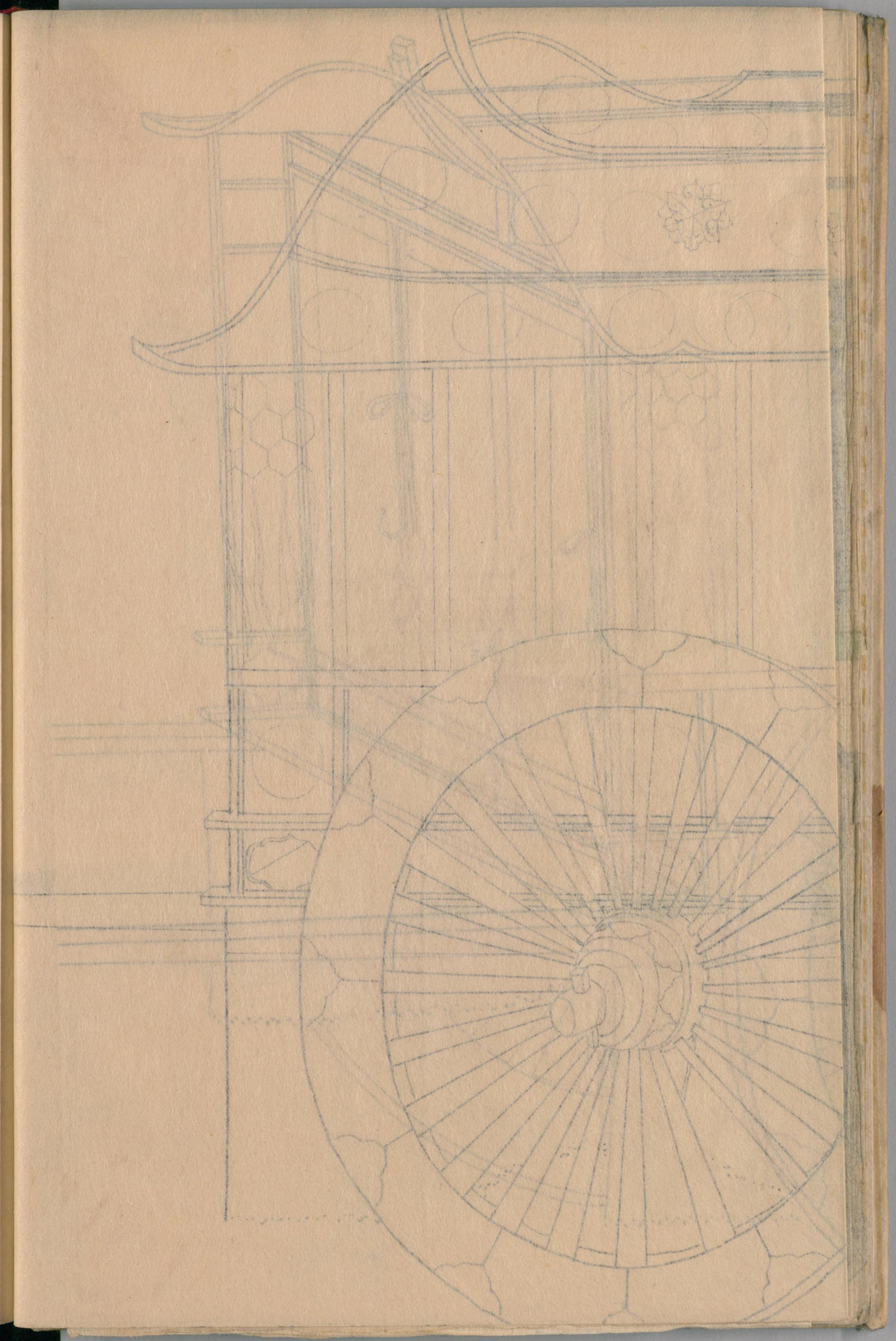


国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22



網代廂車　庇車ともいふ

餝抄云網代連子或号網代庇

物見懸簾攝政窄白大臣大将乗之

門室有職抄云庇車院親王關白大臣乗之庇ノ躰ハ

如四方輿上白袖ハ唐草中ハ管文也

蛙抄云網代廂車親王執政大臣各用之又上皇内々時用之歟

有職抄云庇車院皇太子摂關大臣親王是ヲ用之

牛庇ナトヽ云車アリ網代ノ庇ノ類也

院御乗用例大治二年三月十九日白川新造ノ御堂

供養両院御幸庇ノ車御同車ト云ヽ大治四年三月

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

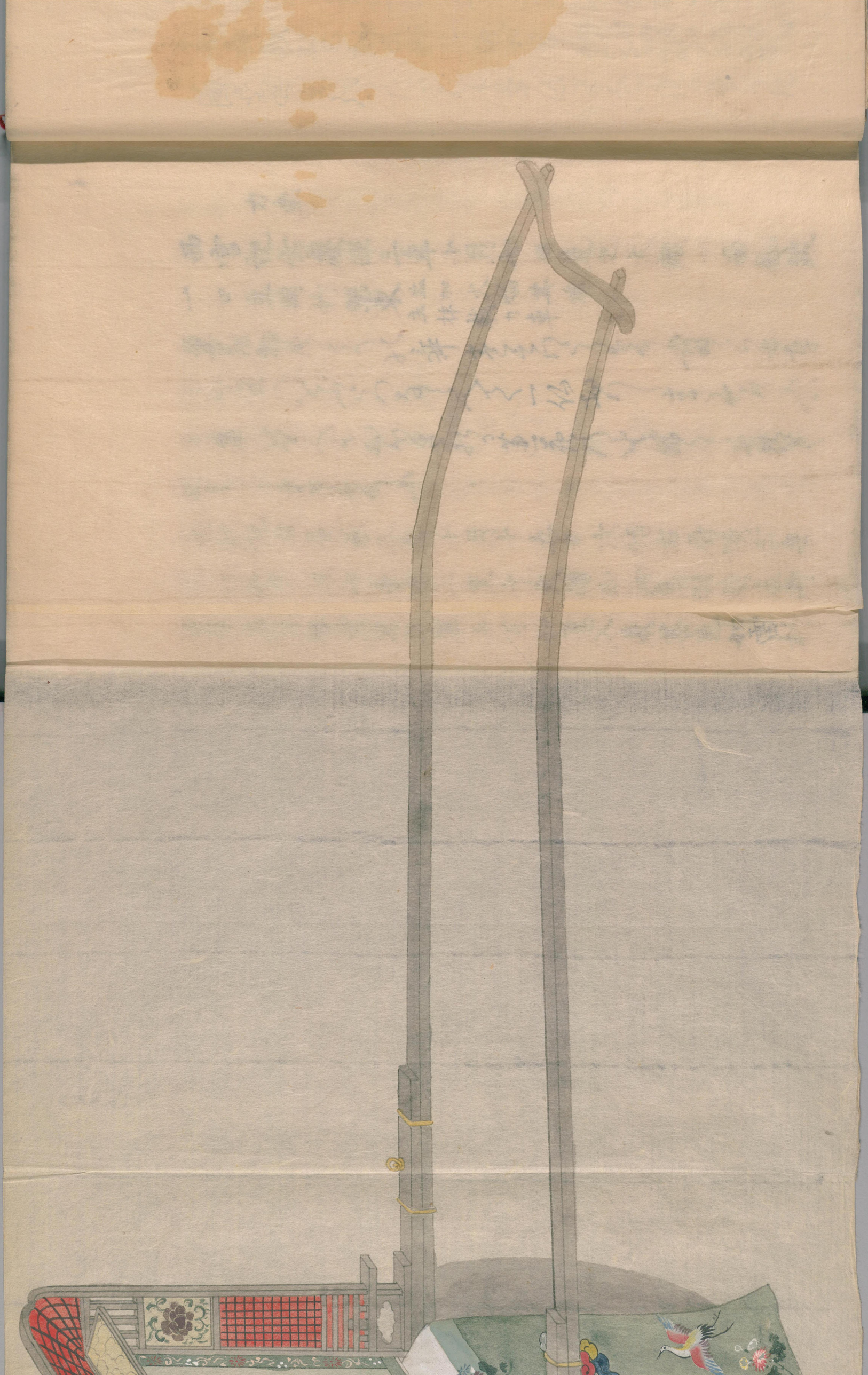
廿九日両院加茂社ニ御幸庇車御同車ニて
仁安元年十月憲仁親王立太子ノ日上皇御幸庇車
ニ乗御
女院　嘉禎三年四月十七日鷹司院准后入内庇ノ車ヲ
用ヒラル
将軍家　康暦二年正月廿日鹿苑院准后大将ノ直
衣始ニ網代庇ノ車ヲ用ヒラル嘉慶二年正月二日同准
后参内始ニ網代ノ車ヲ用ヒラル永享二年十月九日
普廣院将軍大将ノ直衣始網代ノ庇ノ車ヲ用ヒラル
摂家　治兼三年三月三日宇治ノ一切経會ニ松殿
關白白ノ網代ヲ用ユ文治三年十一月廿七日高倉院第
二皇子着袴ニ月輪摂政腰結ヒトシテ参内ノ時庇ノ
車ヲ用ユ嘉禎四年正月廿六日圓明寺任大将ノ召
仰ノ時猪隈大閤庇ノ車ヲ用ユ治兼三年三月十五
日執柄ノ北政所平野社ニ参詣ノ白ノ網代車ヲ用ヒ
侍リシナリ
諸家　久壽二年四月五日東北院十種ノ供養ノ日宇
治左府庇ノ車子息無長師長半蔀ノ車ヲ用ユ
治兼三年三月三日宇治一切経會ニ花山院大政臣上
白ノ網代ニ駕ス負和五年正月廿九日院御幸始ノ

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

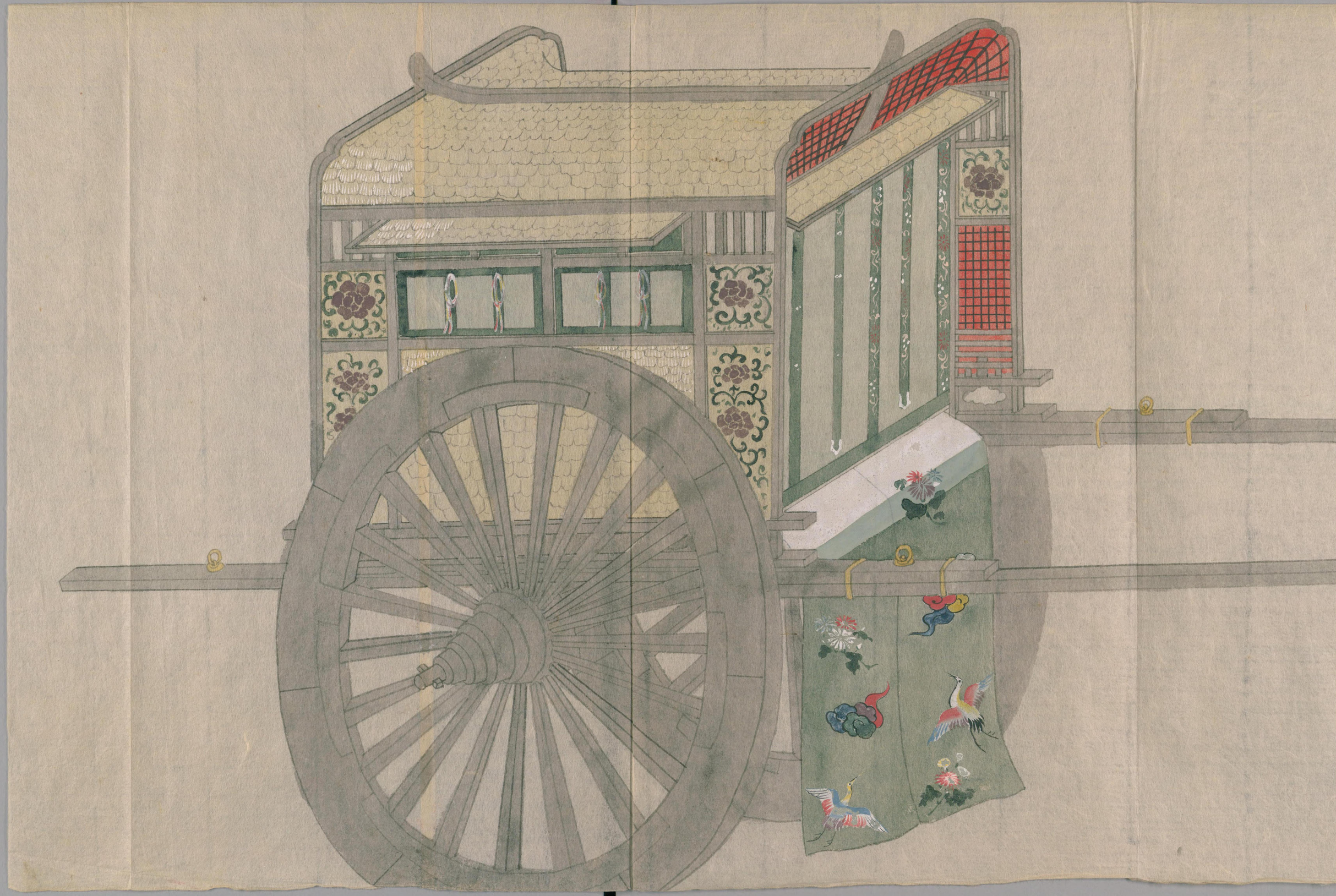
園相國網代車ヲ用ユル也
玉海云文治五年八月廿二日此日下向南都余冠直衣
乘車（依速所不懸下簾故實也）
同云建久四年四月廿八日此日女房參詣春日御社（中略）庇車
之後出衣（藤衣五領但薄衣也有物具）
寛元四年四月廿六日八幡御幸次第云（上略）御車（唐庇）御
束帶之時不被用網代庇
葉黃記云寛元四年十月廿日大嘗會御禊也上皇御
幸御桟敷（中略）已刻出御其儀如常（網代廂御車中菊八葉袖立上之菊也御下簾無繡）
（以下読めず）

圖を出さず

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』請求記号 は-22
ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

力車

西宮記云康保三年十月七日先之大鼓一面鉦鼓
一口立同竹架東並加火焔其前
立梓載カ車

上皇子全傘於し

大車

左經記云寛仁四年二月廿七日早旦參中河御堂
以午剋被奉渡御佛 丈六 阿弥陀佛 九躰中
大車上作蓮花座載 観音勢至各一躰 畧次御佛
仏有白蓋物十一両

荷車

明月記云天福二年七月廿九日家信卿令奪葺
荷車 之間使廳重搦取牛童有召積事等云々

空車

うつか物語蕗原云の巻を云むる車にのりつゝ
てりくさう
清拾遺記云いそんや男女ありくるもの車ともて
まうくるをするにむるのなりつけてあやをおもう
おろしてをくをするをてもちひうる
ものにおろしてをくものしもとの在るもんと
云詞書を物語云如りのふ
いひまるよりそのて待りといひ

十訓抄云小智房架義孝少将車出立
うちつゝく一条のたゆ辻子物見車いみた
て並てすきさりもせんいの中の車のけれん
すきんと人〻目をすまし給ける程に義孝
おりたまとり我引出し給ける車
車なりけりかゝるふるまひを義孝
おもしろかりて人〻を放ちて
源頼政日記集云過近車忘

小右記寛仁二年三月廿五日庚午去夜無空車有殿
左府門前彼殿人擲石打破所々車也ほのゝ明て新車もとのごとくあり

指南車

日本書紀第二十六云齊明天皇五年倭漢沙門智踰造
指南車
同紀才十七天智天皇四年沙門知由献指
南車

日本書紀第二十五孝徳天皇大化二年三月甲申詔曰中略王以上之墓者中略有輛車上臣之墓中略檐而行之蓋此以肩擔輿而送之乎

喪葬令義解云凡親王一品方相輛車謂方相者蒙熊皮黄金四目玄衣朱裳執戈揚楯所以導輛車者也輛車

水車

日本逸史云天長六年五月乙巳太政官符應作水車事右被大納言云三位兼行右近衛大将良岑朝臣安世宣偁耕種之利水田為本水田之難尤在旱損傳聞唐国之風堰渠不便之處多構水車無水之地以斯不失其利此間之民素無此備動苦焦損宜下仰民間作備件器以為農業之資其以手轉以足踏服牛廻等各隨便宜若有自今之後不堪作備者国司作給経用破損隨亦修理其料用救急稲數聚三代格第八

小車

九暦云天徳三年七月七日有中宮小車遊事

長秋記云保延元年三月廿七日五宮入御仁和寺東間置

宮御新造具等手鞠付銀枝小車鶴舞有蓋小車作
馬等類也

終

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

は
12
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

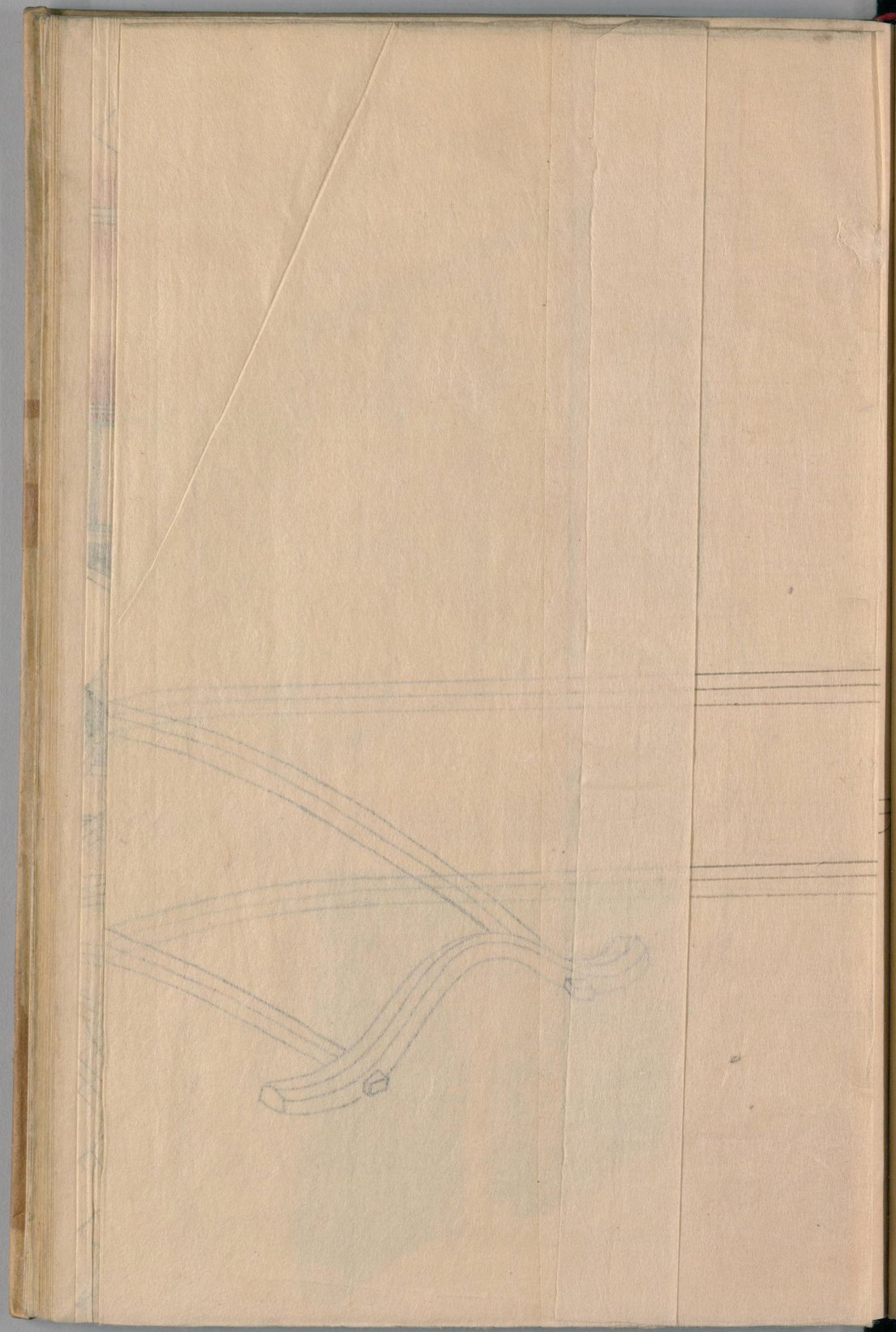
ガラス使用

輿車圖考

六

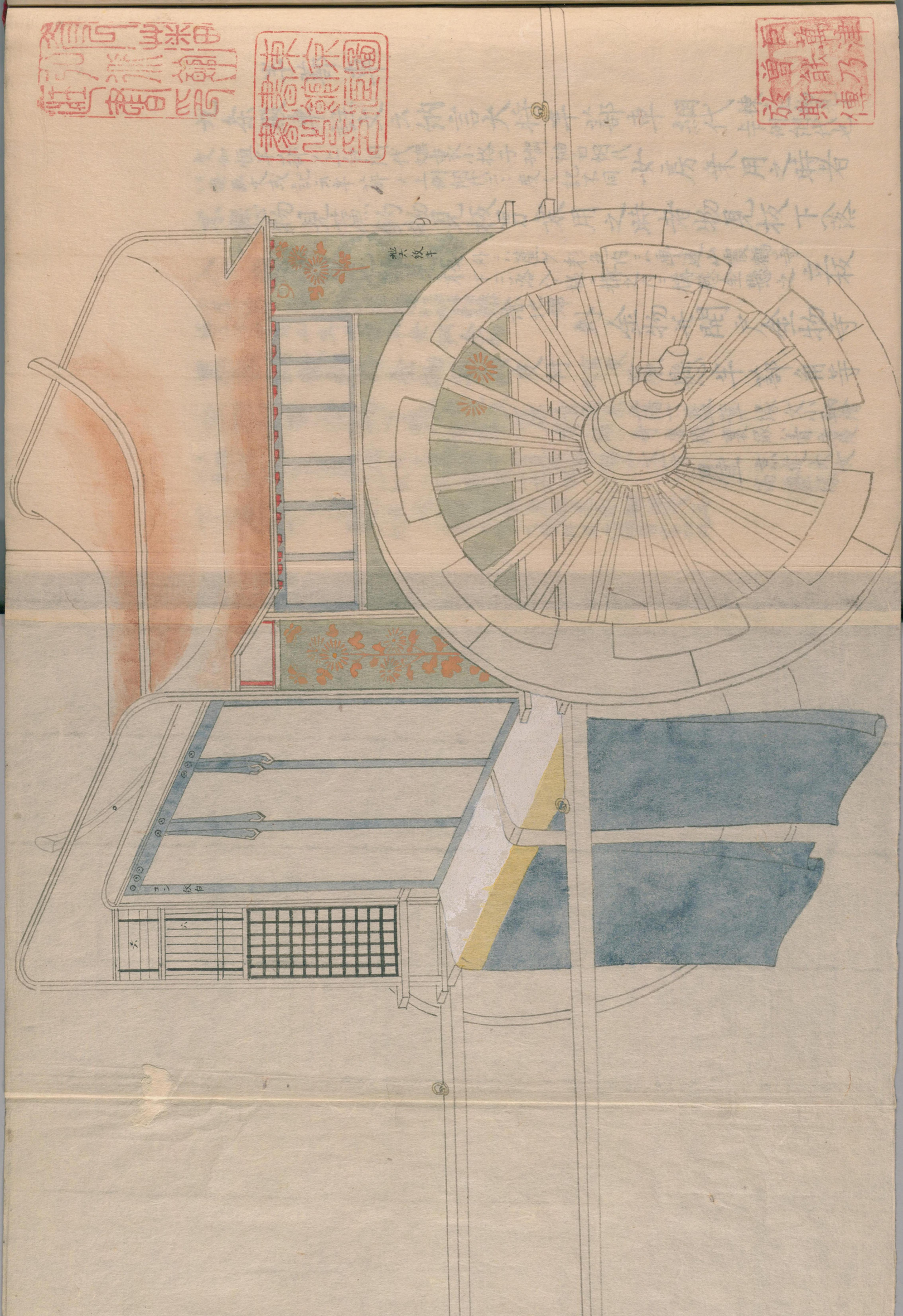
東京圖書館
和書門
政書類
二〇函
五架
九八號
一二冊
は
12
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

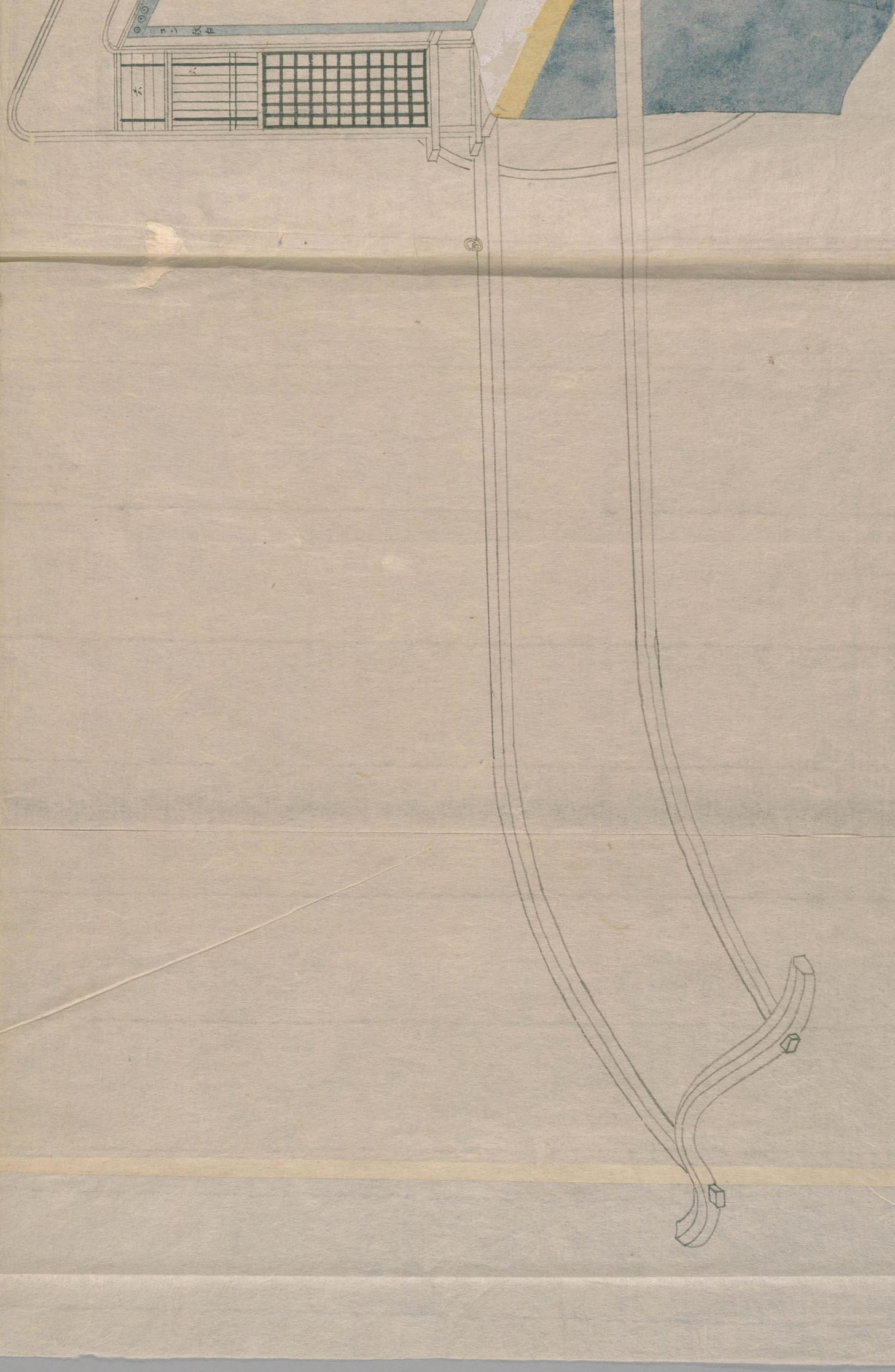


国立国会図書館　　タイトル『輿車図考』　請求記号　は-22

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-

半蔀車

九条殿車註文云納言大将半蔀車綱代棟ノ上物見ノ上下例袖代也文如恒半蔀ノ上白絇代簾裏小格子如例袖白絇代以漆画文或記云半蔀ノ上例絇代云々度々記不同女房乗用之時者不懸物見簾釣物見板男乗用之時者物見板下落入テ懸小簾也物見板外二簾ヲ懸ル彩色内ニ画遠山霞鶴等小葵綾ヲ張テ画四季倭絵左前春同後秋右前夏冬後冬赤地錦縁上下四角并其間有平金銅金物黒赤銅散物内金物并雨皮付有栗簾懸半蔀角等金物銅黄金物下張白色紙有薄簾簾青編糸五緒六藍草縁文小菊繪上緒不入草崎物見簾編糸并裏縁等如先三牧々別懸緒二筋但裏ノ縁ハ奇唐綾裏縁ハ青唐綾下簾青赤濃如例靱面緒榻散物金物黒赤銅絇代并悠

畳 京筵大文高麗縁

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

蛙抄云半部車　号棒部云々文ハ皆用家文三中抄云直太時乗之但頗刷時可用也可懸下簾遠行之時不懸

大臣大将等用之上皇又令用給歟　大臣及大将時号半部云々有刷儀　箱如常ハ葉但左右有半蔀前後有開戸開戸無高棚大臣大将乍差異　綱代　棟表者白色物見上無文物見下例須代青地黄文代乍文袖表白綱代以漆画文同裏花半蔀ノ裏ハ例小格子物言大将時棟表并物見ノ上下皆例綱代青地黄文物見　其外半蔀ノ裏并表袖ノ表裏等皆同大臣

物見板　落入依時引上之懸懸金内外施画図外ハ五緑ノ御簾帽額等画之内遠山ニ霞飛鶴等画之大臣大将乍差或両下戸乗用之

特可懸此板歟　上草なめり　同簾　青地錦縁

金物　大臣内外皆黄金物　物白黒銅内金物簾懸雨皮付半部金物皆黄金物

半部上金　大臣大将皆黄一方各四ツ二説又一方各二ツ建久二ツ二枚切放長懸金四是三条左大臣車如此　下張　白色紙有薄摺遠霞簾　青編糸藍草遠文　大臣大将無差

大臣大将　こようい　無差略之　草等　ものあり

疊　大文高麗縁或小文高麗引懸之　大臣大将無差

ゑようけもろふたへのつくゑ一つあるへし　ささなる机ひきかけもの等後引ともしてもよし車のうしろに車のやうに引出して楊のあるやうにてもよし　ささなる机ひきかけもの等後引ともしてもよし車のうしろに車のやうに引出して楊のあるやうにてもよし

五月七日　問答　主人下車之時楊役人前駈可入轅内哉否相尋之不可然自轅外可立楊之由

答了而令度前駈入轅内開輦戸引出引立
筵立榻了仍有加鞭之輩等云〻尤可笠
人也前駈毛氈等所敷也下車之時ハ主
人ゟ自輦戸ノ梢金ヲとけつゝて引立筵以足
踏出也仍於榻者自轅外立之者也これを
をみるもしるし
靴 画糸靴階隠大臣大将令着 榻 大臣黄金物或赦物大将赦物黒銅白文細代并
細 白布衫之胸見大臣大将無差 車副遣之 人数以下牛車共
桃花蘂葉云半蔀 是狩細代之中也御直衣非晴之時召之 綱代 上白細代以漆画
蔀或
蔀若 立板 小八葉 物見立板内 同廂御車 大略同廂御車金物

外方大臣以前不下 不懸御下簾歟
同云半蔀 細代物見用之物見之上有輦戸 大将之時葉之大臣根
簾時猶用之模家大臣以前不下外金物〻直衣
非晴之時猶用之
家町殿車注文云半蔀車
軾柄ハ大臣ゟ已ゟ
ろいまで
袖ふちなし袖のうちハ白よあまた
乃至て板のおいふ八葉よたの
の画をう縁ハあう作のまゝ

あ〻後下ハうら〻一枚ニ而ふ
ふる紋物見のおもて〻へあ
うらよりそこ〻ニ露をとし
中へ入而大もてれて
あを地のまゝ地のまゝを
うるおいちめ地ニ
もんてうらけんの
なり

一御前家ニ而ハ右ハ
を右ニ乗ニ而ハ重物
ハうし例あり

まんく〻やうに前後ニ
くあまりて馬のうけ
ゟかへくあまりて

三中傳打云御榻役人立榻後自榻上オヨ
テ可開閉乗御之時同人先開戸後立御榻
乗御後可閉之

門室有職打云御車ノ開戸ノ役ハ御前ハ榻役
人勤仕也後ハ御簾役人勤仕也御簾モケアケ
ス以前可開乗御了ハヨシタツヘシ院御車御
簾役ハ殿下合勤仕給但開戸役ハ近臣性寺殿

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

三ヶ被勅仕近来全無此儀閑戸役三殿上人ヶ
被召也
忠光卿記云延文六年三月廿九日 參議左大辨宰相賀毛車中褰
於門前乗車 小雑色自右方立榻信盛閑褰簾 雑色献沓小雑色立榻閑輿戸引出予自巻簾於榻上着沓
蛙抄云開輿戸引出引懸逆ヶ於右轅外押
榻次沓役人自右轅下置榻上則押之跪候主人
自巻簾下車於榻上着沓
後愚記ヶ下車ヶ時ヶ人ヶ自輿戸ノ指金ヶ
もろ〳〵ヶたち〳〵ヶ扨ら〳〵ヶ安戸あるの跪ろ

名記云仁平三年九月十日 於車中見文書条 乗檳榔車西
向立之 軟懸榻 巻簾 家司文章博士長光進申日外記景
良候仰可召之由景良自北方直進入轅内置
菅於踏板 先是閇輿戸 余置笏一々取之見ヶ
これをもくうかへ待ぬ輿戸ハもとのも
ま毛車ヶ見るヶ扨ハ輿戸ろくハ内ろるへし
風輿ヶもろれ輿ヶもろ〳〵ヶ扨ハ風輿
乃輿戸ヶ考ろよ
明月記云元久元年十二月 日 行幸號玄弓閇輿戸
先上の横桟の間ヶ抜そ下ヶ
ろ抜ろ間ヶ抽戸ヶ外ヶ立進寄西内侍前相號取笙

古廻置御輿内（御輿異角方御劔可置其外之程也）退本所取弓候主上御御輿候階下将監言譬子立進寄東内侍内相説取御劔左廻安御輿（左外又ヲ外柄ヲ右當時御劔ハ御輿ヨリ長仍靭サキ懸葦戸上次戸ヲ押タテ、鏡之如元

同云建暦二年十月廿五日（行幸）後聞基忠卿不用葦戸取御劔主上令抑御劔御之間久而思出閑戸こゝを風葦乃葦戸のもこさし給るうさ車なのゝくまる棚のやうに乃葦戸（葦戸ゟくまる棚あるゟうに仕立ゟるゟのゟ）ゟても待ゟや

擔梯そゝみ車（れと古画よいちしるくあるゟう

戸ゟくまるをそもうるかゟへし

有職抄云半蔀車院摂政親王大臣大将是ヲ用ル也但納言ゟ大将ゟ差別アリ（例ノ絇代也文勢陰）半蔀ノ上白キ絇代（文ナレ裏ハ小格子或絇代ト云ヘ記ニ例ノ絇代ト云ヘ）袖ハ白キ絇代（際ヲ以テ今ノ重リ）物見ノ板立板下張簾物見ノ簾畳鞦榻等絇代ノ庇ノコトシ半蔀上ノ金物并ニ雨皮付栗形アリ

簾懸半蔀等ノ金物銅黄嘉禎四年三月十二日光明峯寺関白ノ記曰今日左大将初テ半蔀ノ車ニ乗ル件車左大臣以前ニヨリテ外ノ金物ヲ打ス家ノ流也故入道殿余等如此袖ノ白絇代ノ上漆ヲ以テ

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

牡丹ヲ画ク代々家ノ例也法性寺殿或ハ袖椿ノ車ヲ
用ヒ給フ予故摂政右府等此説ヲ用ユトヲヽ
将軍家乗用例　元暦元年十二月九日鎌倉ノ右大
将頼朝先日院ヨリ賜半蔀ノ車駕ヲ院参ス
摂關安元二年三月五日輪殿関白御賀ノ後日
参内ニ右大臣ニテ半蔀ノ車ヲ用ユ治承三年十月
十三日童女御覧ニ月輪右大臣ニテ半蔀車ヲ用ユ
玉海云兼安二年四月廿八日丙寅依奈良僧都借請半
蔀車車副四人牛飼赤衣仕丁牛等借送之明日別當
大僧正尋範参御社之共也

明月記云寛喜元年十一月廿五日前駈白
小八葉之種五ヲ袖ニ如五月被置切物見車也棟如唐棟ノ
実劇
なり
玉葉云嘉禎三年七月五日前駈白
ヲハ皆巻上可推張也半蔀車左右簾
方許ハ不上之由見御記但猶正礼皆可巻上也云ヽ
同云嘉禎四年三月十二日令日左大将初乗半蔀車参
内中門件車依大臣以前不打外金物家説也或打奈摩志
金物用院薫如此或打黄金物始大臣花山院　年大炊御
門左府説也又袖白絢代上以漆画牡丹是代々家訓也法

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

牡寺殿或令用袖杜若車給予年改摸改右府等用
此說令度為不温右府車牡丹摸改遍同被用此文云〻
同云嘉禎四年四月十日令旦相具小童福王向仁和寺
法親王室中略簀 檳榔中略 次車 右府 隣袖以下略 画杜若
古画図ひろ〻注文よ
く下簾のう〻とうち
う〻なる

檳榔毛車

西宮記云檳榔毛太上皇以下四位已上通用非參議不
云榻 近代無乘用之人
同云上皇乘御車 檳榔前朱雀院初出大内之時乘金餝檳榔
餝抄云毛車執柄家家禮之人用檳榔毛 檳榔前開白近衛領鎮
望用之〻當家用菅但檳榔毛尋得之時用之又無難〻
〻予両度尋得之小路中納言盛蕪卿用之以二輩為一両
但不足〻〻薫苐穆芳 緣簾下簾 金陵
端榻 大臣黄金物大將散物納言已下黒
漆金物執柄家納言間数物大臣之後黄金物
蛙抄云檳榔車 毛車是也 親王大臣納言參議散二三位皆用

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

之 古者僧俗乘之 女房又乘之 賀茂祭女使并内侍出車等例言奏儀皆親王以下東帯直衣共乘之 副牛童兩皮持等如例

箱 無物見有前後有棟表袖表左右各覆櫳櫛有腰簀親王以下至差内方棟及左右各有扱子下張彩絁

簾 濃簾竹紫編糸錦縁七緒唐綾白 親王以下至差歟縁七之中左右ノ端ト中央兩所ト四箇所付簾其間ノ二箇所ハ不付簾崎ニ有金物

七緒五位ハ三緒ノ歟

のそれハ上葦なり古画ニよりて

下簾 簾芳未濃肉言以上懸之奏儀ニ下ス懸之長九尺五寸表裏ノ糸ヨリ一幅ニ三所三針サシ也但裏表同様ニ可指之是有表裏ノ差別以裏為表懸車依有悼也 おそて成うしにてかくるゝ表裏ヲ分ケさるなりけるとゝ

件糸上程少ク弛ニ倍之糸ノ長前車簾中央程也三中折ス二幅アルヲ右幅左端 一尺余リ下ヲ取テ筒端ニ夾左又同之其簾ヲ巻上七八寸許ヨリ下簾取加テ巻上ゝ後方不挟之

この筒ハ巻へき也むもとゝの車

ハ次へ出ル下簾おのてさしのいとハ此のゝくやあり

ゝれもゝ

軾 平面軾以上親王以下至差

揚 親王大臣黄金物本内奏儀等黒金物納言大将時半蔀網代車葉車等ハ漆物也車ハ鉄ノチマヒ金物也家例盛牛ニ重持之

綱 白布打之三十長ノ中テ重ニ取テ中央付別緒其緒ヲ牛ノ鼻ニ付ラ車副二人左右ニ張之

兩皮 表裏平面浅木ニ位ニ上至差ハ付兩皮付金物今葉退

車副遣之 人数以下装束等奉具見左

桃花菜葉云檳榔毛 細々東帯御出之時被召之 赤色簾 錦縁江記云軾柄以後紫織物

以前薫芳織物 薫芳未濃下簾漂網端 帖戎時被用青

簾草縁青未濃下簾金銅金物揚

大永以書寫車 注文云檳榔車箱 牛物見有 簟濃藤芳 但近代附子 金深歟 簀 縁漂綾有引懸 揚牛童特之旧仕連綿也近代申子 之條可然事歟略間牛 細不可拘事也所詮出門之時令持 童子内ニ令持下給 紲白布打ニ 前駈舎人 将太在右方 口付 小子左方 次前駈 帯乗馬 小雑色 女在後 次車 副 平礼白浩上下無袴 二人立左右 張うへを 如木雑色 上張乱階 のくゝもりて 鼠の狩衣 うへを 図よ洋なり 小雑色副轅 左牛童 特榻在右方筒鼠 退紅仕丁 持雨皮左右方有尾迫 笠持 入袋上張之時乗馬召具簡度懸引折之特歩行歟 次侍 車後 有職抔云毛車 太上天皇以下四位以上通用非参議 榻ヲ立サル由西宮抄ニ見ヘタリ 但太上天皇四位以上是ヲ用ユトイヘ尼庇半節 物見簀以下ニ付テ各差

別アルヘキ也檳榔ナキ時ハ菅ヲ用ル説アリ其様簀 薄芳 縁淳線淡 下簀 薄芳未濃 葦秋 連着早鞦 畳 縁細端 榻 大臣黄金物大将数物倶言以下黒塗ノ金物但 執柄家物言数物 大臣黄金物 永治元年十月御禊女御代金作ノ檳榔例ノ檳榔ニ金物ヲ用ルナリ 青簀紫ノ下簀連着之 鞦自餘常ノコトシ文明ノ年将軍家新調車當家ヨリ汪進セシハル日録檳榔毛車 箱 物見ナシ簀戸アリ 前后ニ高棚アリ 棟ノ表袖ノ表左右各檳榔ヲ掛 腰蓑アリ 簀 濃薄 芳ノ紫ノ編ノ糸錦縁裏縁紫ノ唐綾 畳 縁細引掛筵 七緒アリ大臣以下大将以上ノ差別ナシ 前後ヲナシ 鞦 平親 王 大臣黄金物倶言 参儀黒金物 遣縄 白布是ヲ打ニ打ニ長ノ折テ二重ニトリテ中央ニ付ル別ノ緒ニテ牛ノ鼻ニ是ヲ付ル

将軍家 建久元年十二月二日鎌倉右大将頼朝直衣

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

始參內ニ檳榔毛車ヲ用ヒラル建武元年十一月十
九日等持院將軍參議拜賀ニ檳榔毛車ヲ用ヒラ
ル文明十八年七月廿九日常德院將軍大將拜賀ニ
新調ノ檳榔毛ノ車ヲ用ヒラル應永十四年七月十
九日勝定院將軍大將拜賀ニ檳榔毛ノ車ヲ用ヒラ
ル康曆三年正月七日鹿苑院准后一位ノ大將ニテ節
會參勒ノ時此車ヲ用ヒラル
諸家　康治二年九月八日齋宮群行ノ日宇治左
府大納言ノ大將ニテ檳榔毛ノ車ニ乘ル仁平三年
閏十二月廿七日中納言ノ中將兼長拜賀ニ檳榔毛ノ
車ヲ用ユ建保四年七月廿四日京極黃門季御讀
經ノ結願ニ毛車ヲ用曆應四年正月朔日中院大納
言參內ニ毛車ヲ用ユ
淺浮抄云ヒロケイト毛同シ物ナリヒロウヲ細クワリ
タレハ糸ノヤウニホソク白クウツクシクミユルナリ檳榔
ヲ細クサキワルニハ塩ヲ水ニ入テヨクニレハツヨクテ雨ニモ
ツヨク日ニモヨク久ルナリコレヲシテ今ハ塩ヲ水ニ
ニヌユヌアシクシカモホソクハナラヌユヌニ毛車トハ
イワレヌナリ
あろけいとあるものとみる説ふさわしくもあり

ハ〻毛の乗ふもの〻ぬこ〻いぬ〻模様の製のみ
ふるもと

台記云久安六年正月廿八日是三位蒙輦車宣
旨退出中暑次三位乗輦坊門殿乗其後
挽出輦車於門前移乗余檳榔毛車 薫及惟嘗畳
後亦出左余下家司父東帯樻檳榔毛車用下家司先例乍暫見先
日余問禅閤日檳榔毛仆人可樻之乍皷下家司有梗旦之由今従彼
命

同云久壽二年四月廿日賀茂
祭 主人車 檳榔毛蕪芳
惟嘗乎 絹
人車記云久壽三年二月五日今日黄門殿可令拝賀
給中暑次御車 乍檳榔毛
懸下簾

愚昧記云安元三年四月五日今日太政大臣師長
車白簾也青鈍下簾也

玉蘂云兼元三年三月廿三日 故模政女
惟嘗各色〻衣五領出 入春宮 次女房車 九両 檳榔
之各二人乗之出扇 毛有

李瓚日録云寛正五年八月廿三日 檳榔毛乍惟嘗巻
簾自余同女房車
前御院参被乗御車 将軍家
御院参 乎後八鼓之
未〻〻乗下の事車後よりする〻也
その〻をりそ〻ろ
ふる

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

は
12
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

は
6
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22